

- 募集期間 令和6年1月31日(水)～2月21日(水)
- 提出者 3名 (方法：FAX1名、インターネット2名)
- 意見数 6件
(内訳：地域ケア会議 1件、第1号被保険者保険料 1件、災害時の支援 1件、公共交通のバリアフリー化 1件、事業所の質の向上 1件、職場環境の改善 1件)
- 提出期限を過ぎた提出(対象外) 0人(0件)

No	意見(要旨)	本市の考え方
1	<p>【地域ケア会議について】 第9期地域ケア会議の開催数や参加職種などについて提起されているが、実際、事例提案される対象の方のニーズや評価、そして検討できる能力のある人々がケア会議に参加できる施策が必要である。 【理由】 1. 日本で「読みや見えの障害」の方が、約1100万人いると言われてから10年以上になる。そして、ほとんどが高齢者だと言われている。それからいうと、高知市において、65歳以上の人のうち約3分の1の人が「読みや見えの障害」ということになる。 2. 8期まで高知市で行われてきた地域ケア会議では、以下の課題がある。 ①「読み」や「見え」の障害について、ニーズ調査や評価がほとんど行われていない。中途視覚障害の方など「そんなこと言うてもいいのですか?」「見えないのは自分だけだと思っていた」「私は人生を諦めました」など、困っていることを自分だけで抱えている人がほとんどである。 その人のニーズを汲み取り解決の方向に向かうには、よほど「読み」や「見え」の障害について聞き取り方や評価のスキルを持った人が地域ケア会議に参加するシステムがないと地域課題解決の一歩にならない。 ②高知市地域ケア会議に視覚障害専門家がない 高知市以外の地域ケア会議では、ルミエールサロンの方も会議出席メンバーにしている所もあり、同様の事例の場合があった時にはルミエールサロンに相談があるように、相談能力が広がっている。 これらのことから、視覚障害者相談支援専門員やオーテピア「声と点字による」図書館職員、日常的に視覚障害者からの相談を受けている視覚障害者団体の役員の地域ケア会議への出席が必要になる。 3. 地域ケア会議出席者が力をつけるための研修会の充実 具体的に視覚障害リハビリ体験、例えばアイマスク白杖訓練や音声パソコン、生活体験、視覚障害者団体との懇談会実施、オーテピア「声と点字」図書館見学などを定期的に行い、相談の基本ベースを作っていく必要がある。</p>	<p>地域ケア会議は個別の支援について検討するなかで、地域の課題を抽出し、課題解決に向けた取組を進めて行くこととしており、協議の際には必要に応じ様々な方に参加いただいております。 市内14か所の地域包括支援センターで開催しており、今後、協議するなかで必要に応じ声と点字の図書館職員等専門的な方にもご参加いただければと考えております。</p>
2	<p>【第1号被保険者保険料について】 第1号被保険者保険料の算定について、過去最大との運営基金の取崩し、実態に合わせた予定保険料収納率の0.5%引上げについて、標準保険料の上昇を抑制する方向となり、結果として、はじめて前期からの値上げが回避される案となり、その結果、所得の低い階層から約87.3%の被保険者が、値上げなし引き下げとなっている点を高く評価いたします。その上で、第8段階(合計所得200万円以上300万円未満)の料率が、前回の1.5から1.55へと上がっています。この層の料率を値上げなしにするには、約6350万円の収入増が必要です。その収入増のため、相当額の運営基金の追加の取崩しを要望いたします。よろしく、お願いいたします。</p>	<p>国が標準段階を9段階から13段階に見直しを行ったことを踏まえ、本市においても今後の高齢者数や認定者数の推移、これに伴う介護給付費の増加を見据え、現行の10段階から14段階に細分化しました。 また、各段階の乗率についても、所得の少ない方々の保険料上昇の抑制に配慮しながら設定したものです。 介護保険事業運営基金についても、今後の介護保険事業の安定運営と保険料上昇の抑制を図るため、令和5年度当初の残高である23億円を取り崩すこととしておりますので、ご理解をお願いします。</p>
3	<p>【災害時の支援について】 高知市内は津波による長期浸水が予測されている 能登半島地震のように福祉避難所などが十分に機能しない可能性も考えられるが、今後どのように対策していきますか 移動手段としてボートなども想定して備えているのか</p>	<p>福祉避難所につきましては、地震・津波のみならず様々な災害種別に対応できるよう指定を進めているため、長期浸水エリア内の指定施設もありますが、本市における長期浸水発生時の対策としては、津波避難ビル等に在る避難者を自衛隊や消防等の応急救助機関が、ボート等で長期浸水エリア外へ移送する計画としており、浸水時の当該エリア内の避難所(一般・福祉ともに)の活用は想定しておりません。長期浸水エリア内の福祉避難所の設置につきましては、浸水解消後、建物の被害状況等を確認し、施設との調整のうえ判断いたします。</p>
4	<p>【公共交通のバリアフリー化について】 低床バスや電車はどのぐらい導入されているのか。とさでんの電車はノーガード電停があり危ない。高齢者や障がい者、子供のためにももっと安全対策が必要と思うがどうか。既存の電停も車いすの人などが利用しやすい構造となっていないと思うがどのように対策していくのか。</p>	<p>とさでん交通(株)が運行する路線バスは112台のうち86台、路面電車は62両のうち3両について、低床車両を導入しています(令和6年1月末時点)。また、電停やバス停等の利用環境の改善など具体的な取組については、高知市地域公共交通計画の事業11に基づき計画推進しており、今後も交通事業者等と連携を図りながら、全ての人が利用しやすいバス停・電停を目指して取組を進めてまいります。</p>
5	<p>【事業所の質の向上について】 施設内での職員による暴力や虐待の防止のために対策はどのようにするのか。介護などの専門職としての研修をどのように充実させますか。</p>	<p>令和5年9月に動画公開による研修「虐待防止・身体拘束廃止について」を開催しました。引き続き、介護サービス事業所の全従業者が受講できる研修とすることで、研修体制を充実させていきます。</p>
6	<p>【職場環境の改善について】 離職者を減らすためにどのような実効力のある対策をするのか。介護カフェだけでは改善につながらないと思う。賃上げなど待遇改善のために対策すべきと思うが見解を示してください。職員のメンタルヘルスの対策を教えてください。</p>	<p>介護職員の職場環境の改善等について、令和5年度から高知県や高知市の近隣自治体と連携しながら協議を開始しており、今後も実効性のある取組を検討していきます。また、メンタルヘルスに関する研修の開催についても検討していきます。</p>